各火山の８月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする火山性地震は、４月中旬以降、増減を繰り返しながら多い状態となっていたが、８月は日回数 100 回を超える日が１日あったものの、全体としては徐々に減少してきている。しかし 2015 年４月中旬以前の活動と比較すると、依然としてやや多い状態で推移している。

25 日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ第３・第４火口の地熱域は、拡大が認められた７月 27 日及び８月５日の観測時と同程度の拡がりであったことを確認した。その他の火口については特に変化は認められなかった。

遠望カメラによる観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口では 2010 年以降で比較すると、６月頃から噴煙量がやや多くなっている。

全磁力[1] 連続観測ではポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力[1] の変化が継続している。

ポンマチネシリ火口から約 500ｍの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2] に警戒が必要である。風下側では火山灰や小さな噴石[2] が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

十勝岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

25日に実施した現地調査では、振子沢噴気孔群で、６月及び７月の現地調査で確認した地熱域を引き続き確認した。振子沢噴気孔群からは、引き続き強い刺激臭を伴った噴気が出ていた。また、前十勝頂上付近では、複数の列状の噴気を確認した。この噴気は７月の現地調査でもわずかに見られていた。

62-2火口とその周辺では、引き続き熱活動が高まっていると考えられる。

GNSS[3] 連続観測では、2006年以降、62-2火口直下浅部の膨張を示すと考えられる変動が引き続き認められている。火口に近い前十勝観測点では観測点周辺の局所的な変動と見られる変化が2015年５月頃からみられていたが、７月に入り鈍化している。前十勝観測点周辺の局所的な変動は衛星による地殻変動観測でも認められている。望岳台－翁温泉－湯の滝を結ぶ基線では５月頃からわずかに伸張しており、2006年以降みられている62-2火口直下浅部よりも深い山体内でごくわずかに膨張している可能性が考えられる。

十勝岳では、直ちに噴火に至る兆候は認められないが、ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

樽前山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ［噴火予報（活火山であることに留意）］
大雪山［噴火予報（活火山であることに留意）］
倶多楽［噴火予報（活火山であることに留意）］
有珠山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
北海道駒ヶ岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
恵山［噴火予報（活火山であることに留意）］

【東北地方】

秋田駒ヶ岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

女岳では、2009 年から地熱域の拡大が認められている。

地震活動は概ね低調で、地殻変動及び噴気活動にも大きな変化はみられないが、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

蔵王山［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。

GNSS[3] 連続観測では、一部の基線で 2014 年 10 月以降わずかな膨張を示す地殻変動が観測されていたが、2015 年７月頃から停滞している。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要

である。

吾妻山[火口周辺警報(噴火警戒レベル２、火口周辺規制)]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながら少ない状態で経過し、今期間の地震回数は44回(前月 154回)となった。火山性微動は観測されなかった。

11 日及び 12 日に実施した現地調査では、大穴火口内で地熱域の拡大とその領域の一部からの弱い噴気を確認した。また、2013 年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認した。

浄土平の傾斜計[4]では、2014 年４月以降、緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動が継続していたが、2015 年７月頃から停滞している。

GNSS[3]連続観測では、2014 年９月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていたが、2015 年６月頃から停滞している。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014 年 12 月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が見られていたが、2015 年７月頃から停滞している。

大穴火口周辺で実施している全磁力[1]繰り返し観測によると、2014 年 10 月から 2015 年８月にかけて大穴火口内の観測点の全磁力[1]値は減少、大穴火口北側の観測点の全磁力[1]値は増加しており、大穴火口周辺の地下では熱活動が活発化している可能性が考えられる。

大穴火口から概ね 500ｍの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[2]、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

岩木山［噴火予報（活火山であることに留意）］
八甲田山［噴火予報（活火山であることに留意）］
秋田焼山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
岩手山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
鳥海山［噴火予報（活火山であることに留意）］
栗駒山［噴火予報（活火山であることに留意）］
安達太良山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
磐梯山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

草津白根山［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

2014 年３月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加した。2014 年８月 20 日以降はやや少ない状態で経過しているが、2015 年１月と２月に一時的な火山性地震の増加がみられた。地殻変動観測によると、2014 年４月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、2015 年４月頃より鈍化している。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられている。一方、全磁力[1]観測による 2014 年５月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014 年７月以降停滞している。

湯釜火口から概ね１km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石[2]が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

浅間山[火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

浅間山では、６月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていない。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いている。発生した地震の多くはBL 型地震（低周波地震）であった。７月に周期の短い火山性地震（BH 型地震）の割合が増えたが、８月に入ってから割合は減少している。震源の浅部への移動等の変化はみられていない。

火山性微動は７月以降、少ない状態で経過していたが、８月 19 日以降、やや増加している。

山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映[5]を引き続き観測しており、噴煙量は６月以降、増加傾向がみられる。

また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過している。

GNSS[3]連続観測では、2009 年秋頃から縮みの傾向がみられていたが、一部の基線で 2015 年５月頃からわずかな伸びがみられる。傾斜計[4]では、６月上旬頃から山頂西側のやや深いところを膨張源とする緩やかな変化がみられており、

７月下旬頃からは鈍化しながらも継続している。光波測距観測[6]では、６月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものである可能性がある。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるので、山頂火口から概ね２km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[2]に注意が必要である。

弥陀ヶ原（みだがはら）［噴火予報（活火山であることに留意）］

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

以前から熱活動が活発な立山地獄谷では、2012 年６月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

御嶽山（おんたけさん）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年８月以前の状況には戻っていない。低周波地震を 17 日に１回観測した（７月：２回）。この地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていない。火山性微動は観測されなかった。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年９月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年９月 27 日よりも規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。

火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[2]に注意が必要である。

富士山（ふじさん）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

2011 年３月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

箱根山（はこねやま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

箱根山では噴火は観測されていないが、火山活動は引き続き活発な状態で経過している。

６日に実施した現地調査では、15-1 火口内部で、暗灰色の土砂と思われる噴出現象を観測した。現象の規模は小さく、観測中火口縁から外へ噴出物が飛散することはなかった。15-1 火口及び 15-2～4 の各噴気孔、その周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出しているのを確認した。15-1 火口の大きさ及び形状の変化は認められなかった。赤外熱映像装置[7]による観測では、引き続き 15-1 火口の東側で高温領域を確認した。また、これまでの現地調査で確認していない新たな噴気孔を確認したが、大涌谷全体の状況としては、前回（７月 21 日）の現地調査と比較して、噴煙や噴気の量に大きな変化はみられていない。

火山性地震は７月以降減少しており、やや少ない状態で経過している。17 日に箱根町湯本で震度１を観測する地震が発生した。震度１以上を観測したのは、７月３日以来である。低周波地震及び火山性微動は観測されなかった。

国土地理院の GNSS[3]連続観測によると、箱根山周辺の基線で４月から山体の膨張を示す地殻変動がみられていたが、８月下旬頃からその傾向に鈍化がみられている。

今後も小規模な噴火が発生する可能性があるので、大涌谷周辺の概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。また、風下側では火山灰や小さな噴石[2]が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

伊豆大島（いずおおしま）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山性地震は少ない状態で経過している。

GNSS[3]による観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。2011 年頃から鈍化していたが、2013 年８月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

三宅島（みやけじま）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過している。火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年９月以降は１日あたり 500 トン以下で経過している。

火口内では噴出現象が突発的に発生する可能

性があるので、山頂火口内及び主火孔から 500ｍ以内では火山灰噴出に警戒が必要である。また、火山ガスの放出が継続していることから、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると予想される地域では警戒が必要である。

西之島［火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報］

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。

19 日に海上保安庁が、23 日に第三管区海上保安本部が上空からの観測を実施した。19 日の観測では、第７火口の火口縁及び火砕丘北東斜面にある噴気孔から、青白色～白色の火山ガスが連続的に放出されており、白～黄色の火山昇華物が周辺に広く分布していた。火砕丘北東斜面から流出した溶岩は北方向と東北東方向に流れていた。また、溶岩トンネルを経由して東方向と南方向へも流れており、一部は海岸に達していた。新たな陸地の大きさは、東西約 1,980ｍ、南北 1,970ｍ、面積 2.71km^2 となり、前回（６月 18 日：東西方向約 1,980ｍ、南北方向 2,090ｍ、面積約 2.70km^2）と比べて東西方向は変化がなく、南北方向は約 120ｍ減少していた。溶岩流により主に東南東方向には拡大していたが、全般に波浪による浸食と思われる海岸線の後退が認められており、特に南岸での海岸線の後退が顕著であった。23 日の観測では、第７火口の火口縁、火砕丘西斜面、南東斜面及び北東斜面にある噴気孔から、青白色～白色の火山ガスが連続的に放出されており、白～黄色の火山昇華物が周辺に広く分布していた。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。

また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]や水面を高速で広がるベースサージ[8]等の影響が概ね２km の範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね４km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。

硫黄島［火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報］

７日に島北部の北の鼻の海岸付近で断続的にごく小規模な噴火が発生した。火山性地震はやや少ない状態で経過している。GNSS[3] 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年３月頃から隆起速度が上がっている。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福徳岡ノ場［噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報］

18 日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では変色水を確認した。これまでの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年２月３日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

那須岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
日光白根山［噴火予報（活火山であることに留意）］
新潟焼山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
焼岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
白山［噴火予報（活火山であることに留意）］
乗鞍岳［噴火予報（活火山であることに留意）］
伊豆東部火山群［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］
新島［噴火予報（活火山であることに留意）］
神津島［噴火予報（活火山であることに留意）］
八丈島［噴火予報（活火山であることに留意）］
青ヶ島［噴火予報（活火山であることに留意）］

【九州地方及び南西諸島】

九重山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS[3] 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

阿蘇山（あそさん）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

中岳第一火口では、８日 12 時 14 分にごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 600ｍまで上がった。阿蘇山で噴火を確認したのは５月 21 日以来である。８日の噴火直後に実施した現地調査では、中岳第一火口の南側でわずかな降灰を確認した。

期間中に火口縁の南側と南西側で実施した現地調査では、中岳第一火口内の 141 火孔[9] から白色の噴煙が上がり、141 火孔[9] 内の一部に湯だまりと、湯だまり内でのごく小規模な土砂噴出を確認した。赤外熱映像装置[7] による観測では、湯だまりの最高温度は 80～90℃と高い状態であった。141 火孔[9] 南西側に約 600℃の高温の噴気孔を確認し、南側火口壁の熱異常域の最高温度は約 300℃と高い状態であった。

二酸化硫黄の放出量は１日あたり 1,100～1,700 トン（７月：1,200～1,800 トン）と多い状態であった。

火山性微動の振幅は概ね小さな状態であったが、26 日に一時的に大きくなった。孤立型微動は概ね多い状態で経過した。火山性地震は時々発生した。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いていることから、火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2] に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな噴石[2] が１km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石[2] にも注意が必要である。

雲仙岳（うんぜんだけ）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

霧島山（きりしまやま）（新燃岳（しんもえだけ））［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が時々発生した。

GNSS[3] 連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向が認められる。また、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向が見られていたが、2015 年１月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるので、新燃岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2] に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[2] に注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

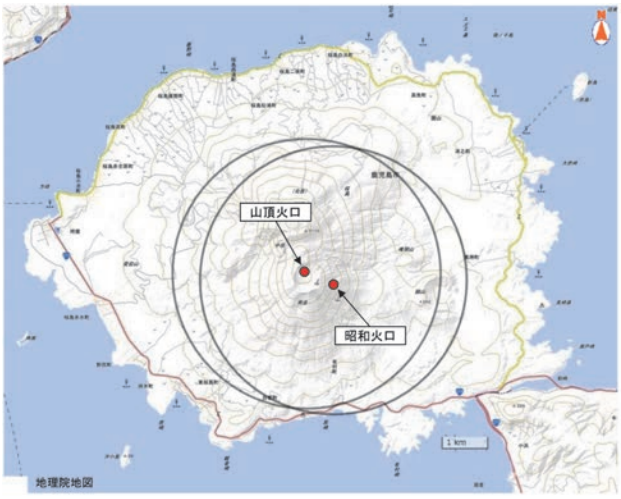
桜島（さくらじま）［噴火警報（噴火警戒レベル４、避難準備）］
←15 日に噴火警戒レベル３（入山規制）から引上げ

桜島では、15 日 07 時頃から南岳直下付近を震源とする火山性地震が多発し、また、桜島島内に設置している傾斜計[4] 及び伸縮計[10] では山体膨張を示す急激な地殻変動が観測された。このことから、桜島では、規模の大きな噴火が発生する可能性が非常に高くなっていると判断し、同日 10 時 15 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から４（避難準備）に引き上げた。

火山性地震は 15 日に 1,071 回と多発し、その後減少した。火山性地震の月回数は 1,321 回（７月：862 回）と前月に比べ大幅に増加し、その多くがＡ型地震（1,228 回）であった。震度１以上を観測した地震は 15 日に４回発生し、桜島島内での最大震度は２であった。震源は主に南岳直下の深さ０～４km 付近に分布した。

昭和火口および南岳山頂火口から３km 以内の有村町および古里町では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2] や火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石[2]（火山れき[11]）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。



桜島　警戒が必要な範囲
（南岳山頂火口及び昭和火口から３km の範囲）

薩摩硫黄島（さつまいおうじま）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では火山ガスに注意が必要である。

口永良部島（くちのえらぶじま）［噴火警報（噴火警戒レベル５、避難）及び火山現象に関する海上警報］

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続している。

新岳では、６月 19 日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していない。

火山性地震は、１日から３日、６日から 11 日に多い状態となった。火山性微動は観測されなかった。

３日、22 日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は１日あたり 200～300 トン（７月 500～700 トン）とやや少ない状態であった。

今後も、５月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性がある。大きな噴石[2]の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石[2]が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるため注意が必要である。新岳火口から半径２海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがあるので、噴火に警戒が必要である。

諏訪之瀬島（すわのせじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

御岳（おたけ）火口では、小規模な噴火が時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が、最高で火口縁上 1,200m（７月：1,300m）まで上がった。爆発的噴火は発生しなかった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、１日、２日、９日に集落（御岳の南南西約４km）で降灰が観測された。

同火口では、夜間に高感度カメラで火映[5]を時々観測した。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石[2]に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石[2]が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

鶴見岳（つるみだけ）・伽藍岳（がらんだけ）［噴火予報（活火山であることに留意）］
霧島山（きりしまやま）（御鉢（おはち））［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

1） 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定される。
2） 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
3） GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
4） 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
5） 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象。
6） レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。山体の膨張や収縮による距離の変化を観測する。
7） 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器である。熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
8） 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象。人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険である。
9） 阿蘇山では、火口内の火山灰や噴石を噴出する孔を火孔と呼んでいる。火山活動に伴い、火孔の位置が変わったり、同時に複数個の火孔が開口したりしたことがあり、明瞭に区別するために、141 火孔のように西暦の下２桁と通し番号で命名している。
10） 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。
11） 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

表２　平成 27 年８月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概　　要
		種類、号数等	発表日時	
口永良部島	噴火警報（噴火警戒レベル５、避難）	解説情報第 176 号～238 号	１日～20 日 22 日～31 日 10 時 00 分 16 時 00 分 21 日　10 時 00 分 16 時 10 分 30 日　17 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
桜島	火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）	解説情報第 64 号～67 号	３日、７日、10 日、14 日　16 時 00 分	爆発的噴火による大きな噴石の飛散状況。傾斜計・伸縮計・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
		解説情報第 68 号	15 日　09 時 25 分	15 日 07 時頃から火山性地震が増加、山体膨張を示す急激な地殻変動を観測。
	噴火警報（噴火警戒レベル４、避難準備）	噴火警報	15 日　10 時 15 分	島内を震源とする地震の多発、山体膨張を示す急激な地殻変動を観測。規模の大きな噴火が発生する可能性が高くなっていることから、噴火警戒レベル４（避難準備）に引上げ。
		解説情報第 69 号	15 日　13 時 15 分	
		火山活動解説資料	15 日　17 時 50 分	
		解説情報第 70 号～81 号、第 83 号～103 号	15 日　16 時 00 分 16 日～20 日、 22 日～25 日、 27 日～31 日 10 時 00 分 16 時 00 分 21 日、26 日 10 時 00 分 21 日　16 時 30 分 26 日　16 時 15 分	噴火の状況。傾斜計･伸縮計･地震回数等火山活動の状況。上空からの観測、現地調査の状況。
		火山活動解説資料	19 日　20 時 20 分	
		解説情報第 82 号	21 日　16 時 00 分	火山噴火予知連絡会拡大幹事会による桜島の火山活動の見解。
箱根山	火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）	解説情報第 94 号～124 号	１日～31 日 16 時 00 分	噴気・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
雌阿寒岳	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第５号～33 号	１日～28 日、31 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。上空からの観測の状況。
		火山活動解説資料	26 日　16 時 20 分	25 日に実施した上空からの観測の状況。
吾妻山	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第 41 号～45 号	３日、10 日、17 日、24 日、31 日 16 時 00 分	噴気・地殻変動・地震回数等火山活動の状況。
草津白根山	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第 34 号～37 号	７日、14 日、21 日、28 日　16 時 00 分	地殻変動・地震回数等火山活動の状況。
浅間山	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第 58 号～68 号	１日～３日、７日、10 日、14 日、17 日、21 日、24 日、28 日、31 日　16 時 00 分	噴煙・火山性地震・火山性微動等火山活動の状況。
御嶽山	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第 73 号～76 号	７日、14 日、21 日、28 日　16 時 00 分	噴煙・火山性地震・火山性微動等火山活動の状況。
阿蘇山	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	解説情報第 61 号～69 号	３日、７日、10 日、14 日、17 日、21 日、24 日、28 日、31 日 16 時 00 分	噴煙・火山性微動等の火山活動の状況。現地調査の状況。
		火山活動解説資料	８日　17 時 15 分	ごく小規模な噴火の状況。現地調査の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）	降灰予報（速報）	21 日　22 時 29 分	噴火発生から１時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	21 日　22 時 50 分	噴火発生から６時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。

注）表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。阿蘇山、桜島、諏訪之瀬島、口永良部島においては、毎日 02 時から３時間毎に８回降灰予報（定時）を発表している。

資料１　全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成 27 年８月 31 日現在）

（１）主な活火山

噴火警報、火口周辺警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の警報及び予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年９月29日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日　噴火予報（平常） 2008年11月17日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年４月10日　噴火予報（レベル１、平常） 2015年７月28日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	大雪山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年12月16日　噴火予報（レベル１、平常） 2014年12月16日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2015年２月24日　噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2008年６月９日　噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2013年７月25日　噴火予報（レベル１、平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年10月27日　噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2015年４月13日　火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年６月16日　噴火予報（活火山であることに留意）
	吾妻山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2014年12月12日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常） 2009年３月31日　噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日　噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日　噴火予報（レベル１、平常） 2009年４月10日　噴火予報（レベル１、平常）切替 2014年６月３日　火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）